

(8) 学校での支援や配慮について

学校生活で、子どもたちが達成感をもち充実した時間を過ごすためには、一人一人の障害の状態や教育的ニーズに応じた支援や配慮が必要です。

聞こえに障害のある子どもには、次のような支援や配慮が考えられます。

①教室環境

- ・ 難聴学級や通級指導教室は静かな場所にする。
- ・ 机や椅子の脚にテニスボールをはめ込み、騒音を軽減する。



②座席の位置

- ・ 前から2～3列目の中央からやや窓側の席にする。先生や友達の顔が明るく見えやすい位置であると同時に、教室全体の雰囲気が見渡せ、友達の様子が確認できるので、安心して授業に臨める。

③教科学習

- ・ 板書しながら話したり後ろから話しかけたりすると理解しにくいので顔を見て話す。
- ・ 話している所やキーワードが分かるように、板書したり指さしたりするなど、視覚的な補助をする。
- ・ 発表する人を「〇〇さん」と手で指示した後に発表させ、発言者の位置が分かるようにする。
- ・ 聞くことと書くことを同時はできないので、ノートやワークシートに書く時間を確保する。
- ・ FM補聴器などを利用し、話している人の音声を聞き取りやすくする。
- ・ 教師の顔や口元がまぶしくて見にくいいため、光源を背にして立たない。

④校内放送・体育館行事

- ・ 休み時間や給食中の騒がしい中での放送は聞き取りにくいので、ノートテイクや板書をしたり事前に放送原稿をもらい提示したりする。
- ・ 行事などでは進行の次第や校長先生やお客様の挨拶文、劇発表の台詞や歌の歌詞などを文字や映像で映し出す。

⑤安全指導

- ・避難訓練は、事前に図や文字を使い、具体的に説明しておく。
- ・非常ベルや緊急放送が聞こえないことがあるので、緊急時の約束を決めておき、教員や学級の友達と協力体制をつくっておく。
- ・後ろからの車の音やクラクションが聞こえないことがあるので、通学時の交通安全や通学路の危険個所について確認しておく。



⑥運動会

- ・音声や笛・ピストルなどの指示が聞こえない場合は、旗の動き・太鼓をたたく・ジェスチャー・サインなど、目で見える方法で行う。
- ・ダンスなどは友達の動きを参考にしているので、よく見える場所で演技させる。
- ・何の競技が行われているのか見て分かるようにプログラムを大きく提示して進行状況が分かるようにする。

⑦プール

- ・まず先生の顔や口元がよく見える場所に座る。「今日の学習の流れ」が見えるようにし、活動の説明の時には伝言ボードをつかって大きな文字で書いたり、絵や身振りを使ったりする。
- ・自由時間の終わりの号令は聞こえないので、時計を見やすい場所に置き、終わりの時刻を大きく書いたり、時計に矢印を貼ったりする。

合理的配慮について、詳しくは、特別支援教育総合研究所や文部科学省のホームページを参考にしてください。

また、聾学校の「きこえとことばの相談支援センター」でもご相談に応じます。